

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）		路線名	かじやまうちだせん 梶山内田線
事業主体	徳島県		関係市町村	美馬市(旧穴吹町)
事業概要	【目的】 当路線は、美馬市中西部の八面山から北へ延びる稜線の東側斜面一帯を中心とした広大な人工林地帯での森林整備の基盤として整備するもので、森林の有する多面的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的とし、ひいては地球温暖化防止や循環型社会の形成に役立つものと期待される。また、穴吹川沿いの国道492号の上部に平行して位置することから、災害時の迂回路として、また集落の孤立を防ぐための路線としても期待されている。			
	【内容】			
概要	利用区域面積	1,461ha	[人工林面積:1,056ha (72%)]	
要	受益戸数(森林所有者数)	451戸		
要	幅員	4.0m		
要	計画延長	18,556m	(うち平成30年度末の供用予定延長 10,967m)	
要	総事業費	4,785,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,369,961千円)	
要	事業予定期間	平成4年度～平成45年度	(42年間)	
事業評価	【事業の進捗状況】 当路線は平成4年に着工し、起点側の梶山工区3, 858m、中間の北又工区1, 680m、終点側の内田工区5, 429mが供用を開始しており、進捗率は59.1%と計画より遅れている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:59.1%]</div>			
	【関連事業の整備状況】 当路線には5路線の林道が接続しており、路網のネットワーク化が構築されるとともに、林業飛躍プロジェクトによる間伐システムが展開され、今後は「新次元林業プロジェクト」による低コストで効率的な搬出間伐が行われる見込みである。			
社会	【社会経済情勢の変化】			
経	<ul style="list-style-type: none"> ・本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も高いことから、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展と併せて、土砂災害の防止や温室効果ガスの固定など、森林の有する多面的機能の維持が強く期待されている。 ・森林資源は、人工林を中心に、この40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超える見込みとなるなど、成熟期を迎えている。 ・また、県内には製材業や家具製造業が古くから発達しており、「合板工場」や「MDF工場」のほか、「大型製材工場」の進出など、多様な加工体制を有している。 ・円安の進行や社会情勢の変化などによる国産材需要は増加傾向にあり、さらなる県産素材の供給強化が求められていることから、木材の効率的な生産・加工・流通の実現に向けて、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが重要となっている。 ・県では、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進し、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。また、平成27年度からは、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指す「新次元林業プロジェクト」が実施されている。 ・目標を達成するうえで、木材生産にあたっては、より生産性の高い「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備と普及を進めており、高密路網の中核を成す林道整備が必要不可欠となる。 			
項	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し			
目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区間を利用して、平成4年度から平成29年度までに、延べ496.5haの森林において下刈りや除間伐等の施業が実施されている。今後、供用区間が増加するに伴い、「新次元林業プロジェクト」によりさらなる森林の整備や保全のための施業が進んでいく見込みである。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.51 (国の採択基準は1.0以上)</div>			
	【受益者・関係機関の意向】 適正な森林の整備を行う上で骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きく、また、5つの林道に接続し国道や県道にも接続していることから災害等緊急時の迂回路として利用でき、地元美馬市をはじめ森林所有者等、早期完成を強く要望している。			
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。				